前会長からのメッセージ

「品質の仲間づくり」の襷をつなぐ

（株）デンソー
若林　宏之

皆さんこんにちは．前会長の若林です．50年度は二橋会長の下で，51年度と52年度は永田会長の下で副会長を務めさせていただき，最後の53年度は会長を拝命し，2024年11月9日の総会をもちまして日本品質管理学会会長の任期を終了しました．

副会長と会長の4年間，理事や代議員の皆様，事務局の皆様には学会活動を献身的に行っていただくとともに活動を盛り上げ支えていただきました．本当にありがとうございました．

日本品質管理学会は3カ年の中期計画を立てて活動を推進していますが，私は3年間副会長を拝命していましたので前の3カ年中期計画に基づく活動をさせていただきながら自分が会長として活動する新3カ年中期計画を立てることができました．またその新3カ年中期計画は，54年度会長の山田副会長をはじめ多くの関係者と議論して策定することができました．

副会長時代も含めたこの4年間，私が勝手に日本品質管理学会のスローガンのように言ってきたのは「品質の仲間づくり」でした．日本品質管理学会に参加するとモノづくりに関わる人でもコトづくりに関わる人でも勉強になる，役に立つと思ってもらえる学会にしたいという思いからでした．

その思いを込めた本学会の53年度の取り組みを，これまでの日本品質管理学会のミッションとビジョンを継承した3カ年中期計画の初年度として開始しました．活動の柱として，A．会員・賛助会員にとって魅力ある学会づくり，B．品質管理の正しい理解と普及促進・社会への貢献，C．更なる会員サービスの向上を掲げて推進しました．

活動の柱AとBについては，「品質の仲間づくり」を意識して，その活動内容にAI品質，ビッグデータの利用を掲げて推進しました．

活動の柱Aの中で，AI品質のガバナンス強化を目的に昨年度の研究会の成果をガイドラインとしてまとめて発行しました．またモノづくりにおける工程内ビッグデータを用いた品質管理を提唱し，無償解析ツールを公開して講習会や研究会での事例紹介を実施しました．

活動の柱Bについては，これまでの問題解決の教育支援に加えてビッグデータ活用を念頭においた小・中・高への品質・統計教育支援を開始し，TQE特別委員会委員長の鈴木和幸先生の主導で第11回科学技術フォーラムを開催しました．

また昨年，品質関連5団体による日本クオリティ協議会JAQが発足しました．昨年度末に品質不正が再び大きな社会問題になりましたので，本年度はJAQ主催で第1回 JAQシンポジウム「新時代を切り開く品質立国日本の再生に向けて」を開催し，品質不正防止を契機にTQM活動を通じた「品質の仲間」づくりを提案しました．

更に本年度はANQ（Asian Network for Quality）総会を山田秀先生の主導により慶應義塾大学矢上キャンパスで開催し，アジア・日本のQualityの研鑽を行いました．

活動の柱Cについては，各種委員会や研究会などの会合をオンライン中心で行い，各種研究発表会や各行事は会員の利便性を考慮した対面とオンラインのハイブリッド開催を中心に実施し定着しました．

昨年度，会員データベースのセキュリティ問題が発生しましたが，これに対してはセキュリティ強化を目的とした特別委員会を設置して必要な対応を完了しました．

また，賛助会員へのサービス向上を意識した特別講演会では，広く職場・現場で役立つ内容の企画により，会員，賛助会員のこれまでにない多数の申し込みがあり，多くの支持が得られました．

以上の様に「品質の仲間づくり」を目指して3カ年中期計画の初年度の活動を行ってきましたが，いずれも未だ種を蒔いた状態です．残念ながら会員減少にも歯止めはかかっていません．これから次の2年間で如何に蒔いた種を育てるかが重要となりますが，3カ年中期計画を一緒に作らせていただいた山田秀会長にこの「品質の仲間づくり」の襷をつながせていただきます．また私にできる応援もさせていただきます．

日本品質管理学会会員の皆様のこれまで同様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします．